

分布：全国

コニシキソウ (トウダイグサ科)

カマエサイセ マクラータ
学名: *Chamaesyce maculata*

小錦草

別名：アカクサ、チチクサ(乳草)

主な生育場所

畑地や芝地、路傍、裸地、庭先などに普通に見られる。日当たりの良い環境に多い。また湿り気のある場所でも生育するが、乾燥に非常に強く、砂礫地など植物が生育しにくい環境にもみられる。

特徴

地面にへばりつくように生える北米原産の小型一年性。全体に白い伏毛が多く、地上を這う茎は長さ20cmほどで切ると白い乳液を出す。葉は対生で長さ5~13mmの長楕円形、上部に浅い鋸歯、中央部に暗紫色の斑紋がある。6~11月ごろ葉腋に花卉のように見える4個の小さな付属体を持つ花をつける。果実には種子3つが入る。



名前の由来：在来で同属のニシキソウ(高さ10~20cmほど)に似て小型の植物であることから、牧野富太郎博士が日本に侵入後の1895年にコニシキソウ(小錦草)と名付けた。

<農業との関係>

夏作の畑にも生え、秋遅くまで生育するが、小型の植物であるため優占する場合は除いて、雑草害はほとんど生じない。作物の根が入りにくいほどの固い土壌では優占してしまうことがある。地面にへばりつくようにして生えるので、手取りでの除草は困難だが、除草剤を連用するなど管理強度の高い水田畦畔では増えてしまう。湛水環境には見られないので、水田雑草とはならない。



四方八方に茎を伸ばし地面を這う様子

<生活史>

関東地方の例(目安)



1年あたり 1~2 世代

<類似種>

在来のニシキソウの葉は長さ7~15mmとやや大きく、コニシキソウよりも茎が赤みを帯び、全体に毛が少なく葉に斑紋は出ない。北米原産の帰化植物オオニシキソウの葉は15~35mmとさらに大きく、茎は立ち上がり高さ40cmほどとなる。



葉腋ごとに花をつける

<一言うちく>

コニシキソウを観察するとアリがたかっていることがあります。アリは雄しべや雌しべのもとにある蜜線から出る蜜が目当てで、蜜を集める際に頭に付く花粉を運んでくれます。餌としてアリが運ぶ種子も生育地の分布拡大に貢献します。コニシキソウは巧みにアリを利用しているのです。

<人との関わり合い>

コニシキソウやニシキソウは背の高い草などに覆われてしまう場所は苦手な環境を好み、刈り込みに強く短期間で生育するため、畑や畦畔、芝生内などよく管理されている環境を好む雑草として馴染み深い。しかし、小型の植物のため、これまで積極的に食用などに利用された事例は聞かない。また、九州地方以南に見られる近縁のシマニシキソウについては皮膚炎や水虫、たむしなどの民間薬として利用された記録はあるが、コニシキソウの薬効については知られていない。

<俳句や短歌への登場>

【季語：不明】

ニシキソウやオオニシキソウも含めて、小型で地味な植物のため、これまで詩歌に詠まれることはなかったようである。